

近畿ブロック国際理解教育研究大会 大阪大会 多文化共生教育分科会 報告

(司会) 樋口 洋三(大阪府大阪市立川北小学校 校長)

(記録) 城 成人(大阪府堺市立城山台小学校 教諭)

(参加者) 40～25名

I 和歌山県からのレポート

報告者 和歌山県和歌山市立西和中学校 教諭 十河 秀彰

1. ナイロビ日本人学校での実践について補説

- ① 日本文化の理解と他文化の理解を共に進めた。節分祭でピーナッツを投げながら日本文化について学んだ。また、ラクダに乗る、ゾウにさわるといことで現地の文化を体感させた。
- ② 現地校やインターナショナル校との交流を行うことで国内にいると意識しない日本の文化に気付き、同時に他の文化を尊重し受容する心を育ててきた。

2. Q&A

- ① 在外での経験を生かして、国内でどのような実践を行いましたか？
英語の授業で「貧困」「識字率」「HIV」などを取り上げました。また、子どもの人権について考える授業を行いました。
- ② そもそもどんな意気込みで在外教育施設へ赴かれたのですか？
「自分が足を踏み入れたことのない国」との出会いに期待しました。また、任地で自分がどんな役割を果たせるのかということを考えながら行きました。
- ③ 現地での文化交流はどのようなものでしたか？
各国のお菓子を紹介してもらったり、遊びを紹介し合ったりしました。遊びには言葉は要りません。「見せる」ことで交流ができました。



II 兵庫県からのレポート

報告者 神戸大学附属住吉小学校 杉浦 浩

1. ロサンゼルス補習授業校での経験

以前より習熟度別の国語指導が行われていたが、「同じ日本人なのに日本語力で区別されている」という意識が生まれ、自尊感情も傷つけられ、子どもたちの満足を得ることが難しいということで在任中に取りやめた。

2. 帰国後の教育実践で心掛けたこと

- ・自宅学習で力をつける。子どもたちの達成感を目指して、学習内容をプリント1枚に集約させた。
- ・マインドマップ[®]で、表現力と理解力を育てる。目で覚える(視覚に訴える)という方法も取り入れる。

3. Q&A

- ① 家で勉強を見ることのできない保護者の場合はどうなりますか？
全く日本語のわからない保護者にとっては無理がかかります。学校で少しでも学び方を身に付けてからでないと難しいです。
 - ② 最近の帰国生の傾向はどうですか？
探求型の欧米教育を受けた帰国生は、教授型の学習形態に慣れた日本の子どもたちとのギャップを感じています。とりわけ能力の高い児童はそのギャップを大きく感じ取っているようです。
 - ③ 語彙の力が十分でない児童へのサポートはどのようにしていますか？
TTや入り込み授業、電子辞書の活用という形を取っています。それでも満足な結果が得られなければ、別室での個別指導を行います。
- 参加者からの感想として「漢字学習の大切さ、フィードバックの大切さを感じた。」という発言がありました。



III 大阪府からのレポート

報告者 大阪府堺市立新湊小学校 教諭 白濱 史枝

1. 日本語教室(アミーゴス学級)の児童の実態について追加

学習に参加できる日本語力=学習言語を身に付けていくことが大きな課題である。日常的な会話はある程度できるが、日本語の力が不十分なため、学習活動への参加が難しい児童に対し、学習活動に日本語で参加するための力=「学ぶ力」を育成するJSL (Japanese as a second language) カリキュラムが必須である。

2. リライト教材について補説

一言でいえばわかりやすく「書きかえる」教材である。しかし、単なる書き換えではなく、国語のねらいをとらえていることが大切である。

形としては「分かち書き」が特徴だが、学習活動として動作化や視覚化を加えることで理解を深めるものである。個々の子どもの持つ力に合わせて作るのだから、複数の子どもが居ればそれだけの数のリライト教材が必要になってくる。作成のポイントは、<子どもの日本語レベルに合わせ><国語としてのねらいに合わせ><スモールステップで向上を目指す>ことである。その後DVDによる学習風景の紹介があった。

3. Q&A

- ① 日本語教室教員と他の教員との連携はどのように取っていますか？
学級での生活の様子を話し合うことで、情報を得ています。作った教材のねらいがはっきりしないと、子どもの学習態度に反映します。
- ② 教材づくりに時間がかかるのではありませんか？
確かにそうですが、どう教えるのかという意味で指導者自身の勉強になります。支援教育への応用・発展も期待されていて、ニーズは高いです。

